

行政視察報告書

令和 7年 6月 2日

呉市議会議長 殿

呉市議会議員

檜垣美良

亀井聡美

上村臣男

阪井昌行

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

令和7年5月19日（月），20日（火），21日（水）

2. 調査項目

北海道ニセコ町 インバウンドへの取組について

北海道札幌市 都心部におけるウォーカブルシティの推進の取組について

北海道札幌市 科学館の大規模リニューアルについて

3. 参加議員

阪井昌行，檜垣美良，亀井聡美，上村臣男

4. 随行者

議会事務局議事課 課長補佐 薦村和雄

北海道 ニセコ町

■調査項目

インバウンドへの取組について

・調査対応者

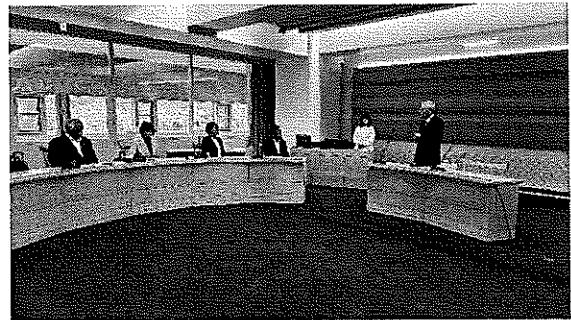
ニセコ町長 片山 健也 氏 (冒頭受入挨拶)
ニセコ町商工観光課 米田 舜 氏 (観光庁より出向)

・調査期日

令和7年5月19日(月)
15時00分～16時30分

・ニセコ町の概要

人口: 5,578人
世帯数: 3,290世帯



・調査目的

ニセコ町は、まちづくり基本条例等を全国の自治体に先駆けて取組んでこられておられます。また、最近では、インバウンドの取組みや観光振興等も、積極的に取組み、世界的にも注目を浴びている町でもあります。

ニセコ町の概要とまちづくり等、あらゆる面での取組を教えてください。

・調査内容

【ニセコ町からの説明】

(冒頭) 片山町長挨拶

- 人口が9,000人から、4,400人まで落ち込んでいたが、現在は、5,100人前後で、冬場は5,700～5,800人の町である。
- ニセコ町に住みたいと言われる方は多いが、住宅が足りない状況、公営で建てる赤字となるので、民間サイドに任せ、株式会社ニセコア町を設立し、超高断熱高気密の住宅を建て、環境にも配慮し、冬場に係る経費を抑制している。
- 環境に配慮したまちづくりを行ってきた。
- ニセコ町の宿泊客が70万人から31万人までに落ち込んだ時期に、ペンションやホテルの経営者等で、行政頼りでは難しいと感じ、観光協会を設立。
パリの観光を学び、リピーター客が多い事に示唆を受けて、周辺の香港や台湾にも積極的にニセコ町のPRを進めた。
- ニセコ町では、毎年起こる雪崩事故で死亡者も発生していた。何とか雪崩事故でお亡くなりになる方を無くしたい一心で取組、結果、雪崩情報を配信する事で、事故の減少に取組んでいった。その、ニセコルールが世界に認められ、安全なスキー場との宣伝が周知され、世界が共感し顕彰にも及んでいる。

●ニセコバブルと言われ、投資家がニセコ圏の土地やペンションなども買っていて値段が高いと言われているが、ニセコ町では環境基本計画を作る時に、日本の経済がバブルでリゾートマンションだらけになったり、森林が開発されペンションだらけになり、数年後には潰れたりとか大変な実態を目の当たりにしてきているので、住民と協議し、乱開発をさせないという事を決めて、環境基本計画と環境基本条例を策定し、そして景観条例も日本で一番厳しいと言われている条例も作り、数値を入れずに、住民との協議をして言う旨の内容を基本にしている、安心して長期滞在できる町として、景観と環境を守る事を優先させている。

●まちづくり基本条例も全国で初めて作った。最後は住民自治しかないので、これまでの社会は、住民サービスの向上という名の下で、本来持っている、住民の自治力・地域力、本来、相互扶助のできる地域の力、支え合う社会を、行政サービスという名の下で、肥大化してきた行政が、地域のコミュニティも奪って来たのではないかと思う。

●片山町長は就任以来、行政サービスという言葉は用いず、行政はサービス機関ではない、主権者のためにある機関、という意識を職員に言っているとの事。

【観光振興課長説明】米田係長説明

●ニセコ町の概要・・・（景観と環境の町）（相互扶助の町）

年間予算100億円 職員数100名

冬場のスキーシーズンは世界から集まり人口が増加。

ニセコ町と隣接の倶知安町・蘭越町でニセコ観光圏を形成している。（ニセコエリア）よく「活発な外資による開発」で取り上げられるのは、隣町の倶知安との事。

●人口5,000人程度の町ではあるが少しずつ増えている。

人口ビジョンにおいては2030年の5,600人をピークに2060年でも人口4,600人を維持している。

●ニセコ町づくり基本条例制定による、住民参加と情報共有によるまちづくりを実践してきている。

●移住者が多く、外国人の方も多いのも特徴。

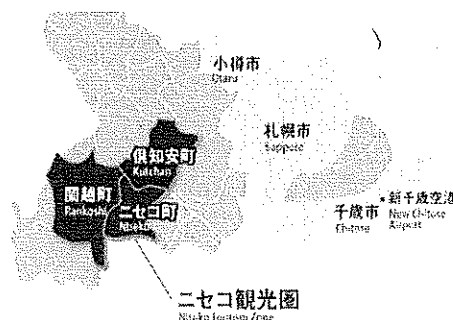
●持続的な町づくりをするために環境と景観を守る事が基本的な考え方。

●ニセコ町景観条例～ニセコ開発の規制・・・住民説明会を開催する等。

●令和5年度の観光客（日帰り含む）160万人・・・ほぼコロナ禍前に戻る。

●道内と道外では、道内客の方が多く、宿泊については、日帰りが多い。

観光入込数では、夏場と冬場ではほぼ同数、夏場は札幌圏から野菜を求めて道の駅に集まり、札幌に向かう道中の中間地点での休憩場所になっている。



●外国人の宿泊者の国別数，香港，オーストラリア，アメリカ，台湾，東アジアが多く，東南アジア，欧米。

●外国人を惹きつける要因は，2001年にアメリカでの同時多発テロが発生した，世界の兆候として，安全な場所を求められていた。同タイミングでオーストラリアの実業家の方が，ニセコの良さを発信してくれた。

ニセコの自然とか景観，パウダースノー，新千歳空港から2時間余りで到着する交通の利便性，日本の治安の良さ等も評価され注目を浴びてきた。

●ニセコルール・・バックカントリーの安全【2001年制定】

スキー場利用者の自由を尊重し，その安全に重大な関心を持つ，事を基本に，悲惨な雪崩事故を無くす取組をしてきた。雪崩情報を天気予報並みに発信。

ルール制定移行を，死亡者はゼロとなっている。

●ニセコ町，自然を楽しむ（カヌー），豊かな食（農業と観光の町），良質な温泉（観光庁指定も受けている）。

●（株）ニセコリゾート観光協会の設立。スピード感をもって観光ニーズに対応している。官と民の良いとこ取り。

●ニセコ町の観光 観光振興ビジョン

●持続可能な観光G S T Cへの挑戦

●グラスゴー宣言への署名

●町民主体の取組（N I S－E C O）

●ニセコ町宿泊税の導入・・観光振興ビジョンに紐づけ

●冬季タクシー対策・・交通不足対策

●カーシェア・・民間の方も利用し，公用車にも活用する。

●潜在的労働力の掘り起こし・・人財確保に向けた取組

●地域おこし協力隊・・2011年～延べ84名。7割が定住者となっている。

●町民の方に役場を開放し，議場なども，町民の方に利用している。

【質疑応答】

Q：観光振興ビジョンについて，アクセスビリティの具体例は？

A：二次交通の強化や多様性の時代なので，どなたでも快適に安全安心にご利用できればと思う。アクセスしやすい環境の提供。

Q：町民の方が観光の恩恵をどのように意識しているのか？

A：多くの入込観光客が多いので，心の繋がり，二次交通の体制より地域の方の利便性も高まる，ビジネスチャンスも飲食店も増える等の広がりが地域経済の循環に繋がり地元の方も足を運べる。

Q：オーバートーリズムをどう考えるか？

A：どちらかというと倶知安町の方が傾向が強く，ニセコ町では町づくり懇談会で皆さんの意見を伺っているので対応できる。

Q：広島にもスキー場があるが，入山料は取るのか？

A：入山料は取っていないが，リフトの使用料などは頂いている。

Q：遭難をした場合の費用は無料なのか？

A：ニセコルールでは最低でも10万円を請求すると決めている。

Q：冬場の人口増でオリンピック選手などが滞在するのか？

A：オリンピック選手が合宿という話は聞いていないが、好きな方が集う。

Q：まちづくり基本条例を基に取組んでいる観光の取組は？

A：同基本条例は、住民参加と情報共有という点になるが、観光カフェであるとか、町民の皆さんが環境に資する取組等をして頂く、また、親子で環境に配慮した施設見学などにも取組んでいる。宿泊税の活用も市民に公開する事としている。

Q：観光カフェの主導は行政なのか？また費用面は？

A：最初は行政が行ったが、以降は観光協会が行い、費用面も役場からの委託費用で運用して頂いている。

Q：地域おこし協力隊が多いが？

A：スキーの好きな方が比較的多く集ってきて頂いているが、全員がそういう理由ではない。（現在25名）

Q：住民に理解して頂くための懇談会の取組はどのように？

A：地区毎に分けて、年に1回開催。（6地区で7～8回）

Q：世界で評価されるニセコで、2023年シルバーアワードを受賞しているが、これは地元からアピールをした結果なのか？

A：地元からの自薦、評価部門が何点かあり、ニセコをアピールした。世界では環境に関する意識も高く、その評価を見てニセコに訪れる方もいる。地元では取組が間違っていない事の確認も含め応募した。

Q：庁内横断的に取り組む事が重要と思うが、どこの部署が中心なのか？

A：商工観光課が中心となって、環境や観光の取組みをしている。

Q：観光振興ビジョンの中に、住民の満足度の実感の数値化はどのように？

A：2023年度に調査をして低いのを実感した。町民の方に、わが子を観光の職業に就かせたいと思う親の割合は1割だった。2028年までの目標値で60%、簡単ではないが、町民の方に観光地で良かったなあと思うえる様、目標を目指して取り組む。

Q：リッツカールトンやヒルトンホテルも雇用は地元か？

A：海外の方が多く、転勤の様な立場で来ているのではないかな。

Q：サステナビリティ雇用についての仕事内容と人数。

A：サステナビリティコーディネーターとして、役場の中でGSPCという資格を持った方2名が対応している。仕事としては、申請であるとか、前述の、シルバーアワードへのノミネートとか、観光協会からの窓口となり取り決めであるとか、多種多彩に対応して頂いている。国際認証機関のGSPCという資格。

Q：インバウンドの中で、移住定住の中での教育の在り方は？

A：町にインターナショナルスクールが2校ある。高校生の取組では、Eバイクの観光コースを考えてPRするとか、若い世代も一緒にまちづくりをしている。

Q：早い段階で、株式会社の設立をされているが、観光に対する意識の違いであるとか、運営の仕方が異なるように見えるがDMOの運営は？

A：ニセコエリアとして、3つの町が入っている、地域連携DMOとして存在しているが。町各々で考え方は違うが、連携に関しては、課題も余地もあるかと思う。

Q：観光で稼いだ外貨で、どのように潤っているか？

A：個人的見解として、皆さんが恩恵を感じていないのではないかな。

Q：地元住民のアンケートはどのように集約しているのか？

A：郵送もしくは広報紙にてアンケートの依頼を掛けている（800件/前回）

【呉市での展開の可能性】

まちづくり基本条例を基に、先進的に取組んでおられる町なので住民参加と情共有という事で、環境も景観も含め、ニセコ町が一体となって取組んでおられると感じました。人口に占める外国人は20%と比較的高いですが、地元の昔から持つ、相互扶助の精神が町の根底にあり、町の方針で、行政サービスという表現を計画の中入れないなど、本来、住民の持つ力を引き出していると感じました。

SNSの発信の力も、ニセコ町のインバウンドの引き金になっておりましたが、2023年シルバーアワード賞など、世界的なブランドを目指して取組む事必要性、世界に誇れる呉ブランドの必要性も大いに感じました。

中核市の呉として、連携中枢都市圏も形成されておりますが、呉市として揺るぎない核を持ちながら、ニセコ町で取組んでいた、GSTCなどの資格を持って職員の育成や、一人勝ちしない循環型産業の形成が必要でないかと思えます。

本市も観光振興計画をR3年に作成し、年間800億円との指標もお示ししておりますが、少し踏み込んで、中核市としての「観光振興ビジョン」を策定し、呉発の発信をするべきと感じて帰りました。

市民の共感を得るには、いずれの事業をするにしても、費用対効果が市民に見える形で表現する事も大事ですが、観光面での呉市は、他の地域に例のない、海があり、山があり、風光明媚な地域資源が豊富にありますので、その景観を最大限に活かしながらの発信にも環境にも力を入れていくべきと感じました。

■調査項目

札幌市 都心部におけるウオーカブルシー推進の取組について

・調査対応者

都心まちづくり課課長	伊関 洋 氏
歩きたくなるまちづくり担当係長	野上 徹 氏
推進担当	前 祐介 氏

・調査期日

令和7年5月20日（火）

14:30～16:00

・札幌市の概要

人口：1,959,512人

世帯数：1,096,729世帯



・調査目的

呉市は、海軍工廠を擁するまちとして発展してきた歴史ある文化、技術の街です。古くから栄えたまちを活かしながら未来の理想に向けたまちなか公共空間デザイン計画を立てている。この度の札幌都心のまちづくりについて～都心部におけるウォークアブルシティの推進の取組～を学び呉市計画に反映させる。

・調査内容

【札幌市からの説明】

都心のまちづくりを総合的・統合的に展開・実施する。

職員26名で構成する「都心まちづくりの一元化窓口」を設立

- ・都心の各地区におけるエリアマネジメントによるまちづくりを推進
- ・「都心まちづくり計画において、札幌都心における中長期的なまちづくりのありかた、将来像を示す。
- ・まちづくりと一体に展開する環境エネルギー施策の在り方、将来像を示す。
- ・民間主体の都市開発プロジェクトを調整し、事業化の支援。

第2次都市まちづくり計画

●まちづくりの目標

- ・国内外から活力・投資を呼び込む札幌都市ブランドの確立
- ・魅力的な都市のライフスタイル・ワークスタイルの実現

●都心の骨格構造

●ターゲットエリアの設定

エリアマネジメントの推進

●まちづくり団体の創設

●札幌駅前通まちづくり（株）

株主：駅前通振興会、駅前通沿道企業、駅前通隣接企業、商工会議所、札幌市
（広告事業・イベントストーリーライブ・展示・オープンカフェ）

●大通地区まちづくり（株）

株主：大通地区6商店街・都市開発公社・大型店・商工会議所・札幌市
（広告事業・共通駐車券・歩行天国・テラス運営など）

●創成東地区

株主：地元住民や企業からのサポーター会費等の運営（マルシェ・お祭りなど）
整備効果

駅前通地下歩行空間は開通後 9 年で 2.4 倍（9 万人が通行）

道路利活用実証実験について

交通課題の解消や新たな賑わいの創出，自転車の歩道走行など
（実験内容）

4 車線の車道を外側 2 車線を自転車道と賑わい創出の歩道
タイムシェアして歩行者通路を荷捌き所に使う

（まとめ）

成果：滞在空間の整備やキッチンカーの出店で歩行者数が増加
限られた空間を有効活用できた。

歩行者の安全性が向上した。

課題：一時的な渋滞が発生や周辺エリアの路上駐車が増加

今後の方向性：沿道事業者や運輸事業者，関係行政機関が連携
エリア全体での荷さばきの運用の検討

【質疑応答】

Q：まちづくりを（株）の組織にした利点はあるか。

A：元々商店街の組織はあった。まちづくりに特化した組織を作りたいと地域も思
っていた中、株式にした理由は利益をあげることができる。

株主に還元せずまちづくりに利用する。

行政からの出資は 3 % とし、残りを株主がまかない自走できる組織。

Q：大通公園の花や椅子の管理はどこか。

A：行政側が費用を負担している。

Q：喫煙所を設置しているがどのような考えか。

A：設置については賛否両論ある。現在は社会実験中で、設置していないとどこ
でも吸ってしまう。

Q：建屋についてはどこが設置したのか。

A：J T さんとかに相談してみることも良い。

Q：禁煙の禁止エリアが費用ではないか。健康増進のためのウォーカブルなまちと
あるが喫煙環境との兼ね合いについて。

A：歩いて健康増進に進める。それぞれの考え方があるが、それぞれの課が連携を
取って一方立場で考えても解決できないことがある。

Q：禁煙区域での喫煙の罰則は沢山の表示が多いが執行したことがあるのか。

A：パトロール隊が管理しており罰則金をいただいている。

Q：トイレの設置状況について。

A：地下道にもあるため十分ある

Q:積雪の多いときのウォーカブルなまちはどのようなっているのか

A:地上で歩いていると寒さで歩けないが、地下道に移動することで長歩きができる地下道のイベントは1区画5,000円の料金を支払い貸し出し。

Q:公園のゴミ箱の設置の管理について。

A:公園は指定管理しており観光客のために1度なくなったゴミ箱が再度設置する。

Q:車線規制することでの課題について。

A:渋滞が発生した。

Q:公園の中の出店はどのようなになっているのか。

A:指定管理であるのでできることである。

Q:車線規制は呉市でもできる。地下道の開設での影響があったのではないか。

A:開発から地域との話し合いを進めてきことが大きな問題が起きなかった。

Q:清掃をすることでその対価をもらいウォーカブルなまちをきれいな環境に保つ。

A:以前は地域通貨があり、ボランティア活動でポイントをためる事業があったが長続きしなかった。自分たちのまちは自分たちが守るこの考えからまちづくり公社ができた地域の方々と一緒に考えているところです。

【呉市での展開の可能性】

呉市おけるまちなか公共空間デザイン計画の考えにもあるようにこのまちは私たちみんなのものであるという自覚する。

みんなで考え、ともに実践し、シビックプライド・地域愛を育みながら新しいまちづくりをすすめるとあるように札幌市さんがすすめるエリアマネジメントを推進する手法で愛する呉のまちを地域みんなで盛り上げる。

環境づくりは様々実証実験を実施しながら公共空間に賑わいを創出する。

港まつりのように車線規制をして側道の車線をキッチンカーや椅子、テントなどを出して滞在して居心地の良い空間をつくる。

■調査項目

科学館の大規模リニューアルについて

・調査対応者

館長 西川英一 氏
学芸課長 石丸和正 氏

・調査期日

令和7月5月21日(水)
10:00~11:30



・札幌市の概要

人 口：1, 9 5 9, 5 1 2 人

世帯数：1, 0 9 6, 7 2 9 世帯

・調査目的

呉市の海事歴史科学館（大和ミュージアム）リニューアルに際し、休館中 できること、オープンまでに考えておくことなど札幌市青少年科学館のリニューアルオープンまでの取り組みを参考に呉市で反映する。

・調査内容

【西川館長からの説明】

1981年に開館して40年以上経過し、壊れた施設の修繕が続く、科学が進歩してきたことから内容の見直しを理由に他の施設と併せて計画的にリニューアルをした。天井、電気、配管、外壁などを2022年の夏より休館に入り2024年4月に再開館した。

【石丸学芸課長】

●これまでコーナーごとのリニューアルをしてきたが統一感がなかった。2018年度基本構想をもとに計画策定してリニューアルに入る。

●休館中はアウトリーチの活動を行い、200校ある小学校、商業施設に出向く

●展示のコンセプト「見て、触れて、考える」

リニューアルコンセプト「あたりまえ」の殻を突き破り「新しい学びのちから」を育む科学館

●フロアを対象年齢で差別化

●展示物数を減少200点から110点

●企業用展示スペースの設置

●実験室の対応人数32名から40名（学校単位）

【質疑応答】

Q:各企業がどのように利用するのか、関わりを持つことで会館への寄付金などに繋がるのか。

A:科学にまつわるものを企業が考えて展示、まちづくりに関わるもの札幌市教育委員会が企業と連携協定を結ぶ（管理も企業がする）

Q:展示物数を減らした理由

A:通路が狭く車椅子が通らなかった、旧館時にはバリアフリーのについての考えがなく後にエレベーターの設置をする。

Q:来館者数は

A:過去最高44万人、リニューアルオープン後59万人

Q:休館中のアウトリーチの活動は

A:小学校や商業施設に出向く

Q:展示を一括して請け負うのか

A:プロポーザルで一社に絞り後の管理は教育委員会が所管管理

Q:実験（サイエンスショー）の講師は

A:理科の元教師2名，現役職員2名

【呉市での展開の可能性】

現在，呉市でも大和ミュージアムの更新の時期を迎えリニューアルオープンに向けて現在休館中です。

オープンまで様々な準備をいっているところではありますが，休館中にだからこそ出来ることとし，サテライト会場を作り，様々なイベントを行い観光客誘致のため仕掛けを考えているところです。

この度，札幌市科学博物館では休館中に200校ある小学校や商業施設に向け，出前講座を行い子供たちがオープンを期待する取り組みを行っていることを伺い，呉市においても休館中に出席講座を行って，観光客に合わせ市内に住む子供たちもオープンを楽しみに期待して待つ取り組みが必要であると考えます。